

2. 地震災害時の活動について

災害時の状況

個人の行動

自主防災組織に期待される活動・役割

発生前

震度
6弱: 立っていること困難
6強: ~7
立っていることが出来ず
這わないと動く事出来ない。
飛ばされることもある。

- 防災自己啓発
- 防災訓練参加
- 発災に向け備え
家具転倒防止
ガラス飛散・照明
器具の落下防止
感震ブレーカー設置

- 防災計画の策定
- 防災知識の普及
- 防災訓練の実施
- 防災資材の点検・整備
- 避難行動要支援者・災害ボランティアの把握・維持管理



発生直後

激しい揺れ
数十秒間続く

~ 発生直後 ~
発生~5分後
【消火チャンス】

- ・揺れを感じたとき
- ・大揺れが収まったとき
- ・出火の直後
(消火器等で消す)

- 自分の身を守る。
- 脱出口の確保
- 慌てて外に飛び出さない。揺れは数十秒間続く。
- 火の始末をしよう。

- 自身と家族の安全確保
- 近隣での助け合い
(出火防止・初期消火・救助等)
- 余震の強い揺れに備えながら
安否や被害情報の収集

大部分の人が被災者であり、生命の危機・生活環境等の破壊に対して、自助と地域住民の共助が中心となる。

数時間後

- 外出中家族の安否の確認
- 「我が家は無事です」黄色シートを玄関等に掲出する。
- 防災ボランティア等協力
- 施錠・電源断して非常持ち出し品を用意して避難所へ。

- 自治会対策本部立上げ
- 救出活動
- 負傷者手当・搬送
- 避難所開設確認
- 住民の避難誘導活動
・避難要支援者の避難支援
・会員避難の安全誘導

行政や公共機関による緊急対応や自主防災組織としては、初動対応となる消火、避難、救出・救護、給食、給水等を実施する時期となる。

数日後

また、外部から様々な支活動、人材、支援物資が入ってくる時期でもある。

- 避難所運営
- 自治体及び関係機関の情報伝達
- 他団体等への協力要請
- 物資配分、物資需要の把握
- 炊き出し等給食・給水活動
- 防疫対策・し尿処理
- 避難中の自警(防犯)活動
- 避難行動要支援者への配慮
- ボランティア活動のニーズ把握